

言葉の教育は零歳から始まる

言葉を、数多く、正確に知っていることが、他のどんな特性よりも、成功の原因である、……こう言って、“言葉の力”を、四十万人もの人々の実験を通じて実証した人がいます。それは、アメリカの科学者、ジョンソン・オコナー博士です。

博士は、中学生・高校生・大学生・工場勤務者から、大会社幹部、監督級まで、約四十万人の人々にテストを行なって、学校で成績の良い学生・生徒、社会で地位が高く収入の多い人は、例外なく「言葉が豊富で正確であった。」と報告しております。

人は言葉で物事を考えますから、言葉が豊富で正確であることが、思考の幅を広げ、これを精密にし深めることは当然です。教育の基礎は、言葉を豊富に与え、その内容を正確に理解させることにあります。

言葉の教育は、零歳から始まっています。赤ちゃんは、生まれ落ちてから、人の声を耳にし、それを一つ一つ大脳に刻みつけているのです。それがやがて、赤ちゃんの発する声の基礎になるわけです。

世界的なヴァイオリニストを何人も育てられた鈴木鎮一先生が、次のようなことをおっしゃっています。

「生まれたばかりの赤ちゃんに、毎日、美しい音楽、たとえばバッハだとかモーツァルトだとか、だれでもいいわけですが、とにかく名曲のすぐれた演奏のレコードを毎日、何度か聞かせるのです。これは必ず同じ曲のレコードでなければなりません。

そうしますとその赤ちゃんは、生後五か月くらいで、メロディーを知るだけでなく、リズムも音程も、また音楽のセンスも、自分のものとして身につけていきます。

これをためすのは簡単です。毎日聞かせている曲の前に、もう一つ別な曲をつないだテープを作って、いっしょに聞かせるのです。

そうしますと、初めて聞く曲のほうは、じっと耳を傾けていますが、次に、いつも聞いている曲になりますと、とたんに目を輝かして、お母さんの顔を見てニコッと笑います。

知っているよ、という表情なのです。そして体を振ってリズムに合わせて喜びを示します。これは、もうすでにその音楽が身についている証拠です。

人間の頭脳は、テープレコーダーのように、そこに表現されるものは、何でもそのまま記録していく機能をもっていて、繰り返し見聞きするものほど、鮮明になっていくのだと思います。」

従来、音楽の才能は生まれつきで、天分のない者はいかに教育してもだめだ、と言われていました。これを、証拠をもってくつがえしたのが鈴木先生です。

音痴は、音痴になるように育てられたから音痴になったのであり、ベートーベンは、赤ちゃんの時から、美しい音楽を聞いて育ったから、音楽の才能が育ったのだ、というのです。

だから、鈴木先生は、赤ちゃんの時から、できるだけ最高の音楽、最

高の演奏を聞かせなければならない、とおっしゃっています。幼児にはバッハは無理だろうか、ベートーベンはむずかしいだろうと考えるのはおとなの考えで、幼児は、与えられたものは何であれ吸収し、そしてたくわえていくのです、ともおっしゃっています。

そうしてみると、生まれたばかりの赤ちゃんのそばでは、夫婦げんかをするのも慎まなければならない、ということがわかります。「赤ちゃんの前だから大丈夫だ。」ではなくて、「赤ちゃんの前だから大変だ。」というように、考え直さなければなりません。

大阪に育てば大阪弁を、東北に育てば東北弁を身につけるのは、赤ちゃんの時からそれを耳にしているからです。子供に美しい言葉を身につけさせたいと思ったら、赤ちゃんの時から、きたない声を遠ざけ、美しい声を繰り返して聞かせるように、努力しなければなりません。

結局、自分の子をりっぱに育てるためには、まず、親自身がりっぱなお手本を示さなければなりません。それには、親自身がりっぱなお手本になるべく努力しなければなりません。

早口でしゃべる親の子供はやはり早口、乱暴な大声でしゃべる親の子供はやはり乱暴な大声、子供の良い悪いはすべて親の責任で、子供に責任はありません。

まだ言葉を聞きとる能力がないと思われる赤ちゃんに、よく話を語りかけるお母さんがいます。何をする時でも、わかるまいと思われるの

に、やさしい声で語りかける、むだのように見えますが、実はこれが大事な教育なのです。

おむつを換えるのに黙っていないで、「花子ちゃん、いい子ね。」を繰り返したり、「きれい、きれいしましょうね。」と話しかける、それが子供を育てる“言葉”の教育です。

アメリカの保育所で、一歳二、三か月の幼児に、毎日十五分くらい、話を聞かせてやるグループとそうでないグループとを作り、それを半年くらい続けた後にテストしてみると、毎日定期的に話を聞かせたグループの幼児たちのほうが、知能が著しく伸びていた、という報告があります。

美しい声の“発声練習”のつもりで、できる限り美しく、やさしく、愛情をこめて子供に語りかけるようにしましょう。その親の努力の大小が、子供の運命を決めるのです。



子供に美しい言葉を身につけさせるには親自身美しい言葉を使う